



東口まちなか広場

東口まちなか広場は、豊田市駅東口を交通広場から歩行者空間へと大きく変化した、これからのまちの顔となる空間です。挙母祭りなどの大規模なイベントに対応しつつも、日常の風景やにぎわいをつくる仕掛けとして、水盤を設置します。また東口大階段も観客席にもなる居心地の良い場所となり、大屋根はまちの新しいアイコンとなります。祝祭性のある空間と日常のにぎわいづくりの両立が重要な空間です。



KEY PLAN

現状分析

狭い場所に動線が集中し、歩行快適性の低い駅前広場



豊田市駅東側(地上)でのバス待ちの様子

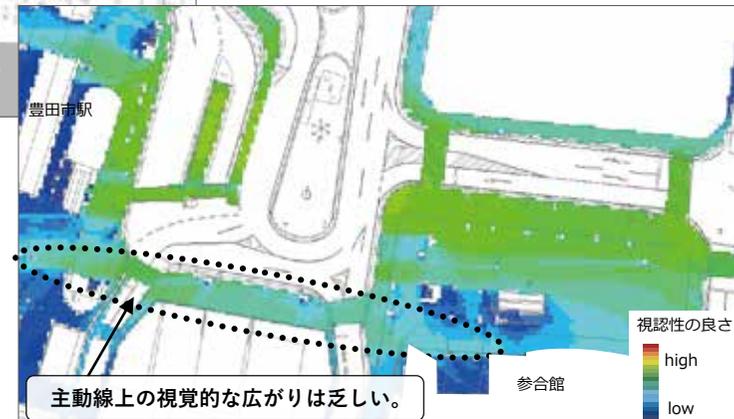


駅から参考館方向に向かう経路



調査③：滞留行動調査

- 座って話をする
- 座って喫煙する
- 座って飲食する
- 座っている(その他)
- 立って話をする
- 立ってバスを待つ
- 立って信号を待つ
- 立っている(その他)
- ← 移動している(参考)



調査①：視認性の特性指標(現況)

使われ方のアイデア

象徴的なまちの顔／日常の風景と大規模イベントの両立

- ・まちの顔となる大階段や、日常のにぎわいづくりの水盤を設置します。
- ・水盤は水を抜けばフラットな床となり、お祭りや国際大会レベルの大規模イベントの舞台となるハレ空間となります。
- ・様々なシチュエーションに対応し、ハレとケを両立できるデザイン案とします。

「日常」

- ・まちの顔となる大階段の風景づくり、まちを眺める視点場づくり
- ・日常的なにぎわいづくりの水盤設置
- ・東西自由通路への視線の抜けの確保

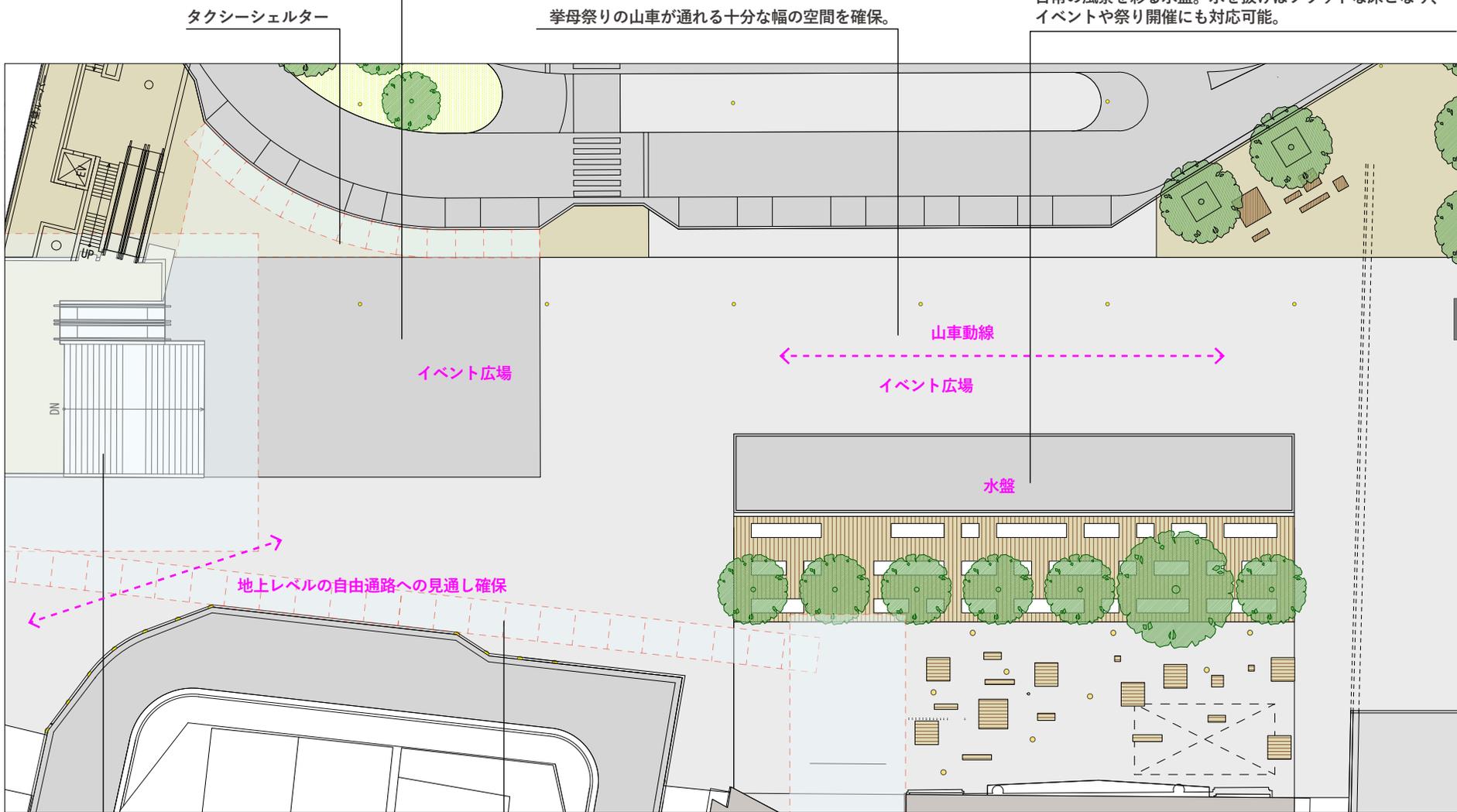
「イベント」

- ・お祭りやRWCレベルの大規模イベントの舞台となるハレ空間
- ・ウェルカムセンターによる来街者対応
- ・GAZA南広場と連動した使い方

デザインのポイント

豊田市駅から2Fの舗装が一部東口まちなか広場にも貫入し、駅からの人の流れを受け止める。

日常の風景を彩る水盤。水を抜けばフラットな床となり、イベントや祭り開催にも対応可能。



観客席にもなり、待ち合わせの人が座るようなまちのアイコンとなる、東口大階段。

参合館へ、雨にぬれずに地上でアクセスするためのシェルター山車対応として一部取り外し可能なデザインとする。

平面図 S=1/500

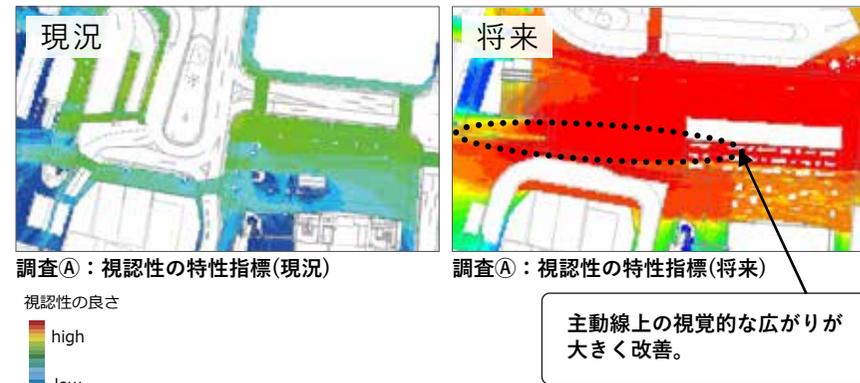
< 空間イメージ >



< アクティビティ >



< 空間の分析 >





GAZA南広場

GAZA南広場では、これまでに開催されているアイドルのコンサート等、日常的に小規模イベントを開催する広場として整備します。大規模イベント時には、ロータリーを通行止めにする事で、東口まちなか広場と連動した使い方が可能です。



現状分析

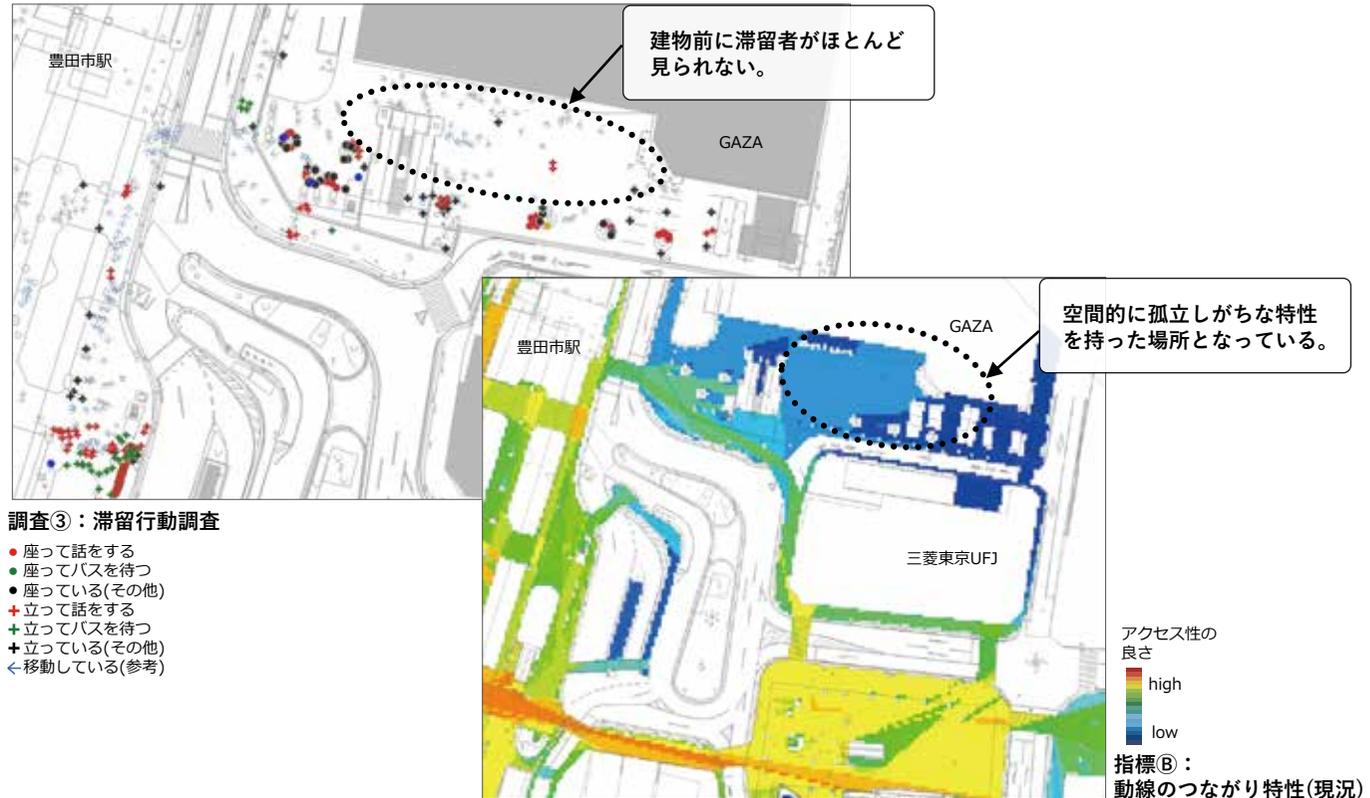
アクセス性が乏しく、活用されていない孤立した空間



GAZA前の様子



豊田市駅東側(地上)からGAZA方向を見る



使われ方のアイデア

日常的な小規模イベント開催／活用から始める居場所づくり

- ・ 現在でも活用が進んでいる中で、日常的な小規模イベントが開催できる空間として位置付けます。
- ・ 前面のロータリーはイベント時には一部通行止めとし、東口まちなか広場と一体的に利用できる計画とします。
- ・ 周辺整備の進捗に合わせ、広場の利活用を進めたり、暫定整備時には、UFJ跡地利用との連携を図ったりと、柔軟に対応できる空間です。

「日常」

- ・ GAZA舗装修繕内容を提案し、つかうチームと連動した居場所づくり
- ・ UFJ跡地での利活用と連動した使い方(暫定整備時)
- ・ 東口まちなか広場からの視線の抜けや心理的な距離感を縮める設えとする。

「イベント」

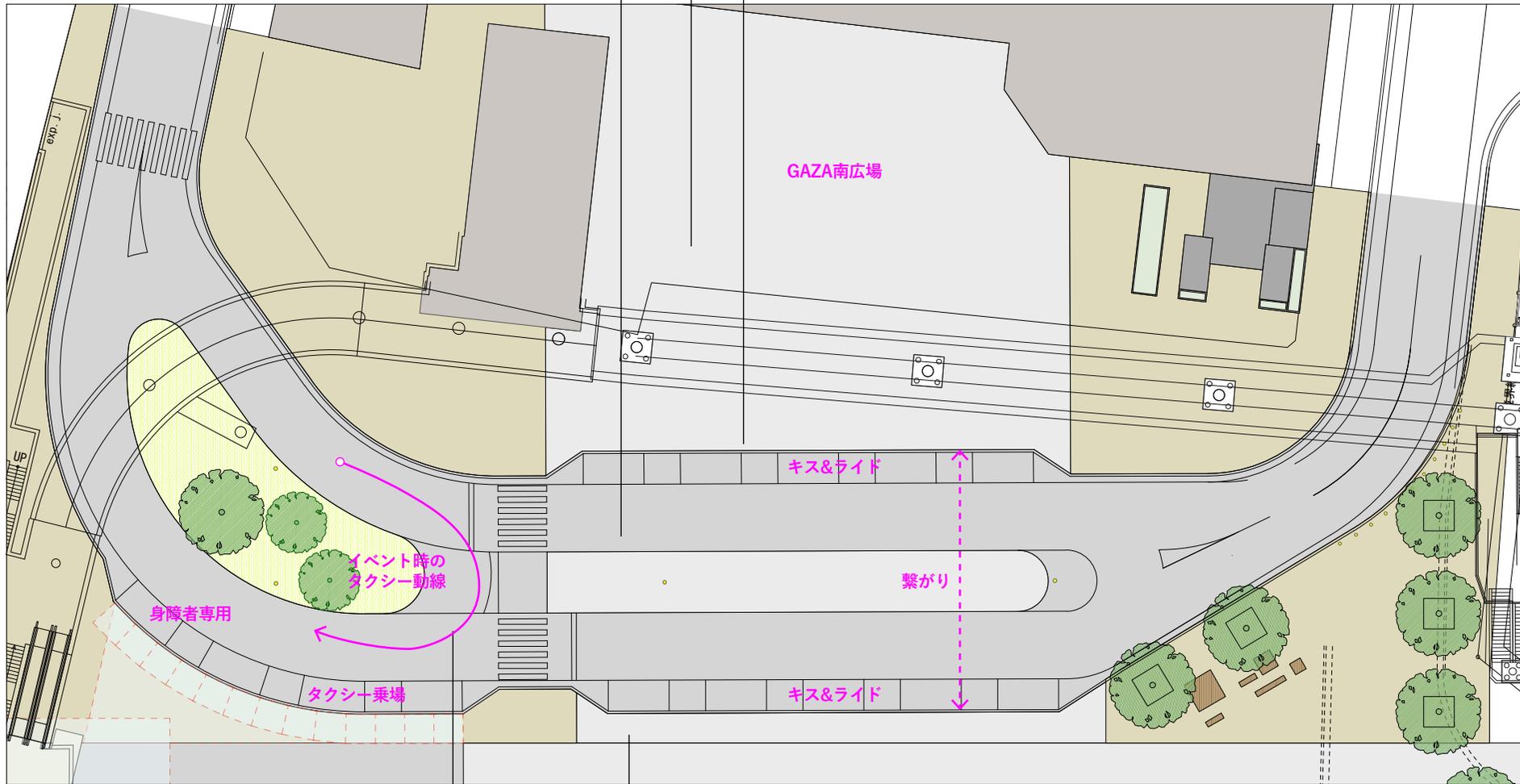
- ・ これまで開催されている、アイドルコンサート等の日常的な小規模イベントを開催
- ・ 大規模イベント時はロータリーを止め、東口まちなか広場と連動した使い方をを行う。

デザインのポイント

交差点間の舗装色を変えることで、安全対策と同時に、GAZA南広場と東口まちなか広場をつなぐ仕掛けとする。

GAZAの前庭として、日常的なイベント開催を行う。

ボラードや縁石などの施設が南北の分断にならないように、段差や形状などを工夫する。



平面図 S=1/500

GAZA南広場の舗装デザインがロータリーを超え、東口まちなか広場まででてくることで繋がりを生む。

イベント時にはキス&ライド部分が通行止めとなり、東口まちなか広場と一体的に使われるため、タクシーのための回転路を設ける。

※将来的な車両性能の向上に合わせて交通広場の整備内容が変化する可能性がある。

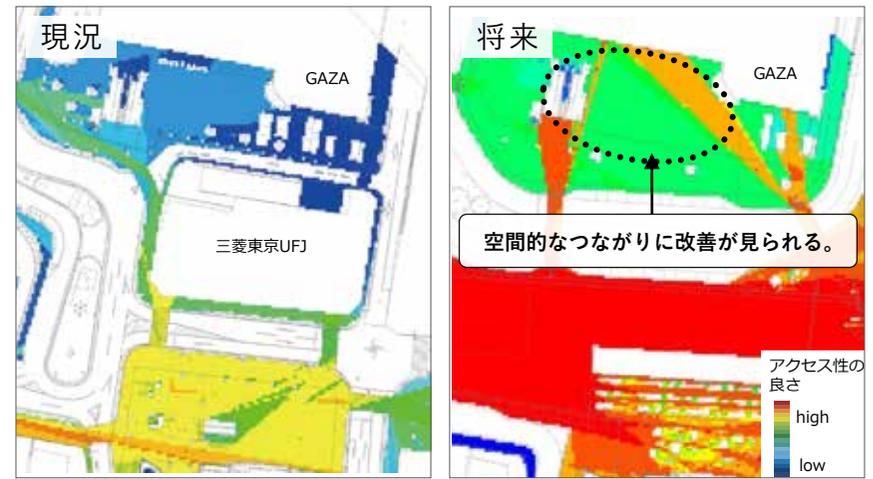
< 空間イメージ >



< アクティビティ >



< 空間の分析 >



指標⑧：動線のつながり特性(現況)

指標⑧：動線のつながり特性(将来)



参合館前広場

参合館は図書館にコンサートホール、能楽堂と優れた文化的コンテンツを有しており、平日・休日共に多くの市民が訪れる施設です。参合館前広場と1Fアトリウムを連動させ、矢作口の日常の居場所を創造するとともに、参合館の優れた文化的コンテンツと連動した小規模イベント空間を作り出します。



現状分析

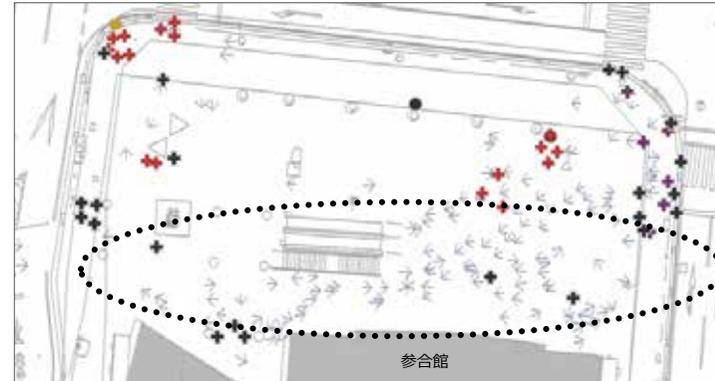
有効に使われていない、公共施設前の広い歩行空間



参合館前広場の様子



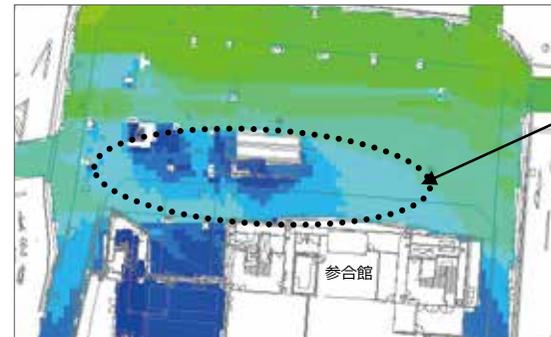
参合館入口周辺の様子



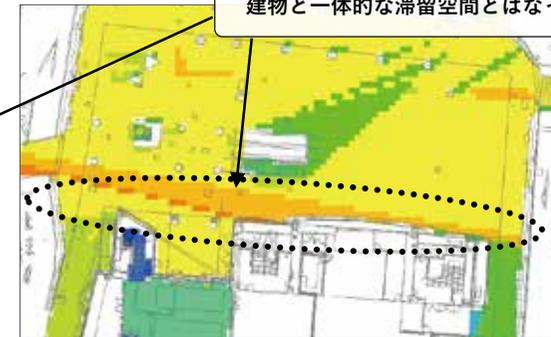
調査③：滞留行動調査

参合館の建物前に動線が通り、他の部分はあまり使われていない。

動線としてのポテンシャルが大きい一方で、視覚的な広がりがなく空間の魅力が低い。建物と一体的な滞留空間とはなっていない。



指標①：視認性の特性指標(現況)



指標②：動線のつながり特性(現況)

視認性の良さ
アクセス性の良さ
high
low

使われ方のアイデア

矢作口の日常の居場所 / 建物と連動した小規模イベント空間

- ・ 矢作口の日常の居場所として、緑陰のある居心地の良い滞留空間を作り出します。
- ・ 参合館前広場に屋根を計画し、屋外型店舗によるにぎわいを作り出します。
- ・ 参合館の優れた文化的コンテンツを核に、建物と広場を一体で活用することにより、豊かな日常の使い方を実現します。

「日常」

- ・ 木陰の下で読書などの活動
- ・ 一人でも居心地良い空間づくり
- ・ 建物に沿った屋根を設け、屋外型店舗による居心地づくりを行う
- ・ 建物と連動した日常の豊かな使い方/図書館・ホールと連動

「イベント」

- ・ 日常的な小規模イベントの空間
- ・ 建物と連動したイベント内容

デザインのポイント

日常のにぎわいをつくる水盤。

水盤のそばに緑陰のあるベンチを置き、居心地の良い空間をつくる。



参合館へ、雨にぬれずに地上でアクセスするためのシェルター
山車対応として一部取り外し可能なデザインとする。

緊急車の乗り入れを想定し、ウッドデッキではなく、ハードペイブ舗装とする。

平面図 S=1/500

参合館からの屋根。今後東西方向に拡張することも可能なデザインとする。
イベントや飲食店舗の雨天時リスクを最小限に抑える。

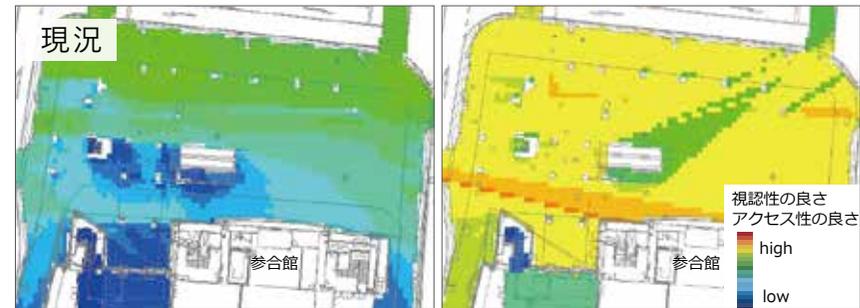
< 空間イメージ >



< アクティビティ >

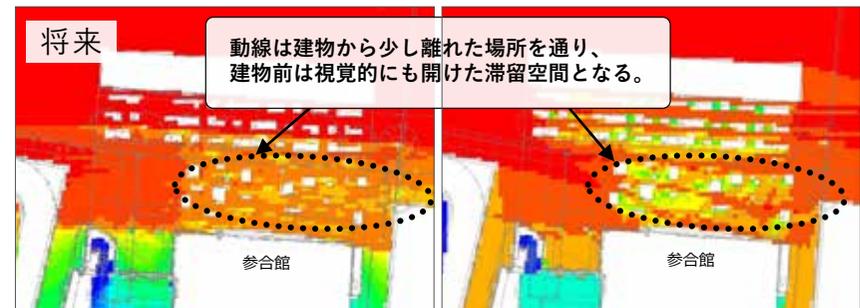


< 空間の分析 >



調査A：視認性の特性指標(現況)

指標B：動線のつながり特性(現況)



調査A：視認性の特性指標(将来)

指標B：動線のつながり特性(将来)



停車場線

東口まちなか広場から続く、停車場線は将来フルモール整備することを構想にしています。豊田市駅から見える風景は豊田市を代表するまちの顔となることを目指しています。

日常ではKITARAやコモ・スクエアの賑わいが停車場線ににじみ出し、それらがつながっていく風景が、またイベント時には豊田スタジアムへの行きと帰りを彩ります。挙母祭りでは山車の主要ルートとして、一年で一番の祝祭性あふれる空間を演出します。



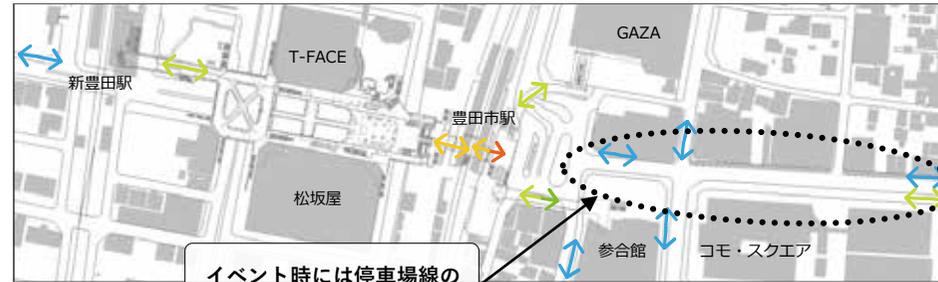
現状分析



日常時のコモ・スクエア前の様子



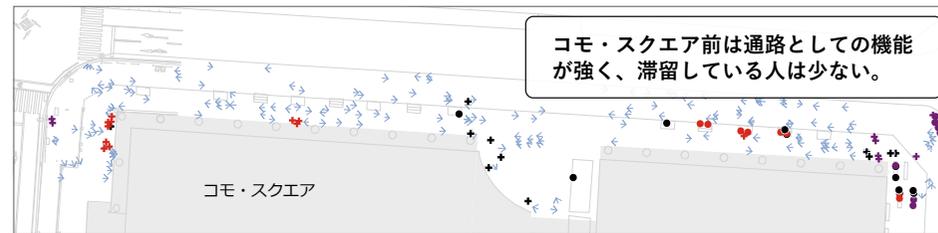
挙母祭り時のコモ・スクエア前の様子



イベント時には停車場線の
人通りが飛躍的に増える。



コモ・スクエア前は通路としての機能
が強く、滞留している人は少ない。



使われ方のアイデア

日常・イベント共に、大小さまざまな活動を受け止めるストリート

- ・ コモ・スクエアやK i T A R Aの地先空間として、カフェなどの様々なプログラムを公共空間においても同時に活用できる空間とします。
- ・ お祭り時には、停車場線全体が使えるような空間となり、日常との使い分けができる空間とします。
- ・ 実証実験を繰り返すことで、フルモール化の実現を目指していきます。

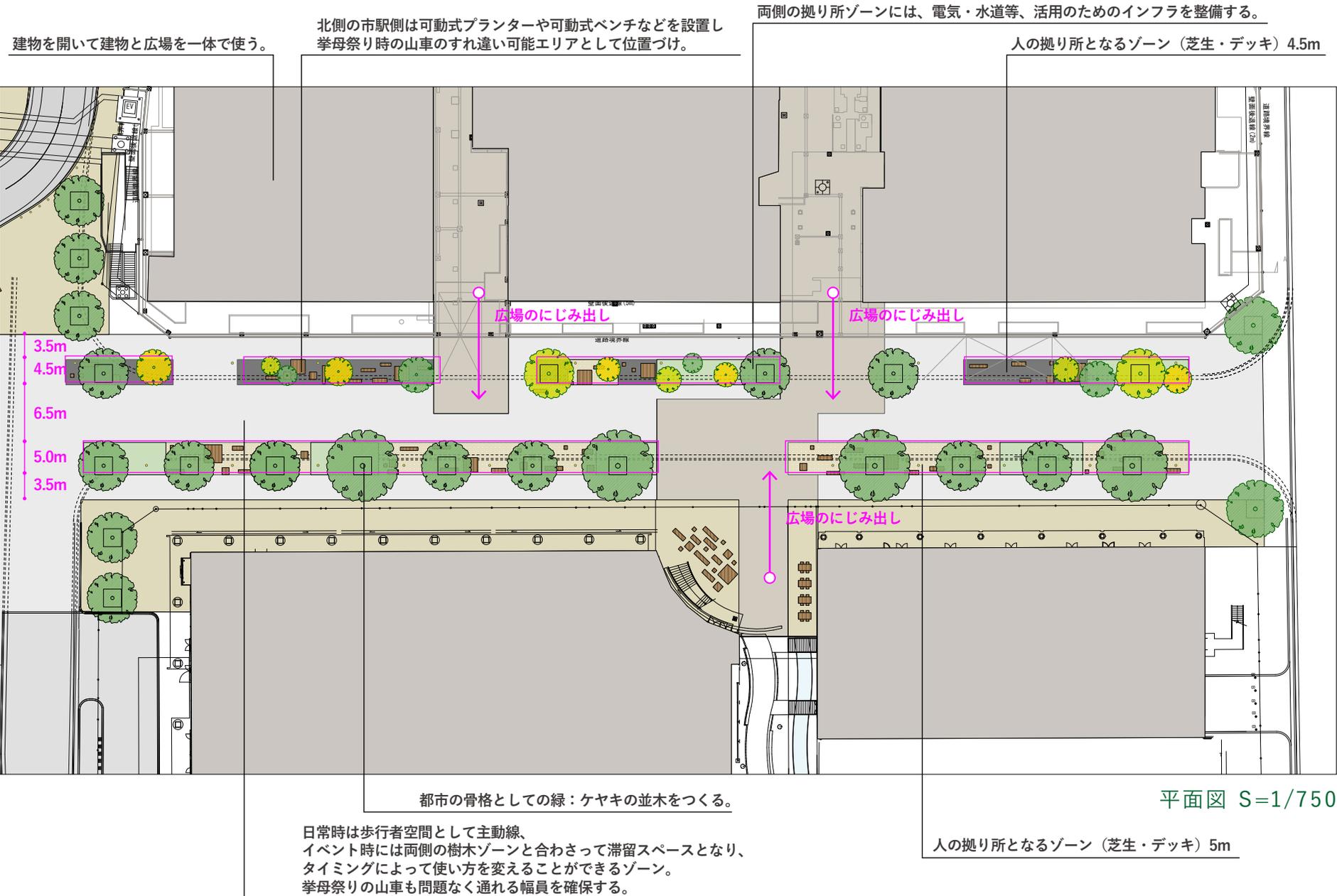
「日常」

- ・ 建物と連動した使い方
- ・ 様々な小規模イベントや活動が共存し連続するストリート空間
※滞留空間のパターンと配置を工夫
- ・ 様々な使えるフレキシブル性と都市の顔としての並木空間

「イベント」

- ・ 東口まちなか広場と連動し、挙母祭りといった一番の大規模イベントの舞台。
- ・ ストリートを活かし、祝祭性を増幅させる空間づくり

デザインのポイント



< 空間イメージ >



< アクティビティ >

